

創立90周年を迎える節目の年に経営のかじ取りを任せられた。原材料価格の高騰など取り巻く経営環境は厳しいが、顧客に付加価値をPRするとともに、金属以外の新素材やオフィスの内装工事といった分野に注力し売り上げの確保に努める。技術や知識を傳承する一環として、社員の経験を蓄積した独自システムの活用も進めていく。

— 就任の抱負を。

「89年の歴史ある会社を受け継いだ。会長（前社長）が積み上げたものづくり精神などの理念や歴史をしっかり継承する。一方、原材料価格の高騰や人材不足といった動きがある中で、いかに工場を効率的に稼働させるかが重要だ。会長と一緒に売上げを引っ張り、着実に売り上げを積み上げていく」

— 経営課題は。

「原材料価格や人件費が上昇しているが、売値自体は価格競争になる。ボリュームの

菊川工業

ながまさ うつの 宇津野 隆元氏

金属以外の周辺業務にも注力

大きい工事には競争相手が非常に多く集まってしまつ。その中でどう戦っていくかが重要な課題だ。顧客に対して当社の付加価値をきちんとPRし、認知してもらつよう営業活動を積極的に展開していきたい」

— 注力する取り組みは。

「建築デザインが複雑化・精緻化する中、コストやメンテナンスの観点から、マーケットが金属離れしているように感じている。これからは金属だけでなくガラスや木といった周辺部分も取り入れていき、『ファサード全体で菊川工業に任せよう』と言われるようにしなければいけない。これまで金属以外の材料はほとんど扱っていなかったのでもっと勉強して技術や知識、経験を積んでいきたい。協力業者と一緒に業務の幅を広げていく」

属の装飾金物が寄与する部分は大きいと考えている。ただ、内装工事は納期が短いため、設計や製作にかけられる時間も短くなる。リードタイムをいかに短くできるか、その仕組みも作り上げないといけない」

— 社員の育成も課題となっている。



「社員一人一人の知識の底上げが大切だ。各社員の知識や経験を閲覧できる独自のシステムを構築している。当社が手掛けているのは特殊な仕事のため、調べても情報量が少ない。さまざまな情報を得た人がそれを登録すること

「工事分野では内装やインテリアに注力する。特にコロナ禍でオフィスの在り方が変わった。画一的なオフィスではなく、内装に特徴のあるオフィスで快適に働こうとしたとき、デザインなどの面で金

新社長

1998年米コンコディア大学ネラスカ校卒。2010年菊川工業入社。15年取締役、21年専務。趣味はスポーツ全般。特に中学生の頃に始めたバスケットボールは、現在も週に1度、シニアチームでプレーしている。米国在住時は地元の大会で優勝した。東京都出身、49歳。

（2月15日就任）

2023年04月13日 001面 01版 No.02